

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第2号を送付します。

平成18年度病害虫発生予察特殊報第2号

1. 病名 トマトすすかび病

2. 病原菌名 *Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton

3. 発生作物 トマト

4. 発生経過

平成18年5月頃から、高知県春野町の施設中玉トマトで葉かび病に類似した病害の発生が見られ始めた。このトマトは葉かび病に耐病性を有する品種であったことから、高知県農業技術センターにおいて同定したところ、本県ではこれまで発生が確認されていない *Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton によるトマトすすかび病であると診断された。

現在、県内では同町の20a以外での発生は確認されていないが、県外では平成8年に宮崎県で発生が確認されて以降、1府10県のトマト、ミニトマトで報告されている。

5. 病 徴

発生部位は葉で、初めは葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑を形成し、やがて病斑上に灰褐色粉状のカビを生じる。それから病斑は円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、灰褐色から黒褐色に変わる(図1)。葉表には、不明瞭な淡黄褐色の病斑が生じ、その上にもカビが生じるが葉裏に比べると少ない(図2)。病勢が進展すると葉全体がカビで覆われ、ひどい場合は葉が枯れ上がる。本病害は、症状が葉かび病に類似しており肉眼での判別は困難である(図3、4)が、顕微鏡で観察すれば、分生子が細長いことから容易に判別することができる(図5、6)。

6. 病原菌の形態・性質

糸状菌の1種で不完全菌類に分類される。

分生子は淡褐色、鞭状または円筒形で先端は少しくびれ、小型の油胞がある。分生子の大きさは不同で、0～15個の隔壁を有する。

生育適温は26～28℃で、分生子の形成適温は18～22℃、発芽適温は26℃付近である。

7. 伝 染

罹病した植物の残さ上で生存し、分生子の飛散により伝染する。

8. 防除対策

- (1) 発病葉や残さは今後の伝染源となることから、できるだけ残さないように丁寧に除去し、ほ場外へ出す。
- (2) 過繁茂や換気不足は発病を助長するので、こまめな摘葉や温湿度管理に留意し、多湿条件を避ける。



図1 すすかび病の病徴 (葉裏)



図2 すすかび病の病徴 (葉表)



図3 葉かび病の病徴 (葉裏)



図4 葉かび病の病徴 (葉表)



図5 すすかび病菌の分生子



図6 葉かび病菌の分生子